



■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE横浜2022年版v.1.1

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Sports Center SANITAS 建設工事	階数	地下1F,地上3F
建設地	横浜市青葉区奈良町字土橋2713-1他	構造	SRC造
用途地域	法22条区域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2023年10月3日
敷地面積	12,010 m <sup>2</sup>	作成者	石田哲史
建築面積	7,435 m <sup>2</sup>	確認日	2023年10月3日
延床面積	14,283 m <sup>2</sup>	確認者	左右田浩文

**2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)**

**BEE = 3.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★

**2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)**

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 64%

③上記+②以外の 64%

④上記+ 64%

0 46 92 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したもので

**2-3 大項目の評価(レーダーチャート)**

**2-4 中項目の評価(バーチャート)**

**Q 環境品質**

Q1 室内環境				Q2 サービス性能			Q3 室外環境 (敷地内)		
Q1のスコア = 3.7				Q2のスコア = 3.8			Q3のスコア = 4.1		
音環境	3.0	温熱環境	3.8	機能性	3.7	耐久性	4.0	対応性	3.9
光・視環境	3.8	空気質環境	4.2	生物環境	4.0	まちなみ	5.0	地域性・	3.0

**LR 環境負荷低減性**

LR1 エネルギー				LR2 資源・マテリアル			LR3 敷地外環境		
LR1のスコア = 4.7				LR2のスコア = 3.5			LR3のスコア = 3.6		
建物外皮の	5.0	自然エネ	4.0	水資源	3.4	非再生材料の	3.6	汚染物質	3.6
設備システ	5.0	効率的	4.0	地域温暖化	4.4	地域環境	3.1	周辺環境	3.2

**3 設計上の配慮事項**

**総合**

- 学校のスポーツ施設として快適な環境を創出しながら、外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の低減に努めている。

Q1 室内環境		Q2 サービス性能		Q3 室外環境 (敷地内)	
・ほぼ全面的にF★★★★の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。		・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。		・視点場からの外観バースによる検討等、良好な景観形成へ配慮した取り組みがある。	

**Q1 室内環境**

- ・ほぼ全面的にF★★★★の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。

**Q2 サービス性能**

- ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。

**Q3 室外環境 (敷地内)**

- ・視点場からの外観バースによる検討等、良好な景観形成へ配慮した取り組みがある。

**その他**

-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフケイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい



## 4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

## &lt;非住宅&gt;

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 Sports Center SANITAS 建設工事

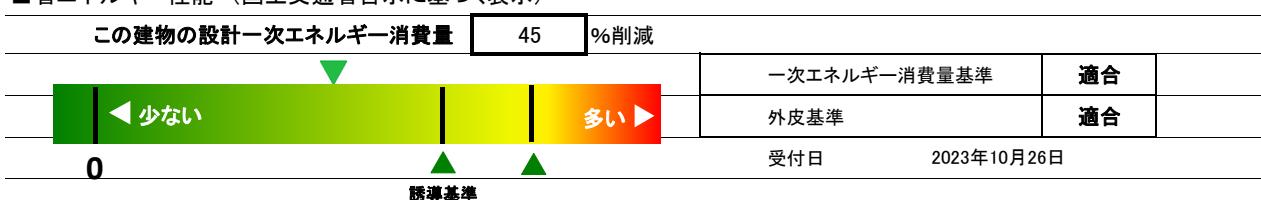
## 建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

5

## ■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



## ■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

主要な用途別エネルギー消費内訳を把握できる。

ライフサイクルCO2排出量の低減

## 健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【快適・働きやすさ】

4

## ■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

空調(吹出)方式:床吹き出し

天井裏を含めほぼ全面的にF☆☆☆☆☆を使用

## ■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

天井高:3.2m以上

## ■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

## 防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防災】

4

## ■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

耐震性の割増を行っている。

耐用年数の長い設備機器を使用している。

屋根に搖れを抑える装置を導入している。

## 地域・まちづくりへの貢献 (T) Township &amp; Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

4

## ■室外環境(敷地内)対策 (⑮生物環境 ⑯まちなみ・景観 ⑰地域性への配慮)

まちなみ配慮した景観計画としている。

地形を活かしたまとまった緑地の確保

## 太陽光発電などの導入

## 環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギー・マネジメントシステム以外)

木材利用

## エネルギー・マネジメントシステム導入

BEMS



スコアシート	実施設計段階	重点項目	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
配慮項目		<非住宅> <集合住宅>					
Q 建築物の環境品質							
Q1 室内環境							
1 音環境			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 騒音			3.0	0.40	-	-	3.7
1.2 遮音			3.0	0.40	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能			3.0	1.00	-	-	
1.2.2 界壁遮音性能			-	-	-	-	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	
1.3 吸音			3.0	0.20	-	-	
2 溫熱環境			3.8	0.35	-	-	3.8
2.1 室温制御			3.5	0.50	-	-	
2.1.1 室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-	
2.1.2 外皮性能	快適・働きやすさ	健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	5.0	0.25	-	-	
2.1.3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	5.0	0.30	-	-	
3 光・視環境			3.8	0.25	-	-	3.8
3.1 昼光利用			1.8	0.38	-	-	
3.1.1 昼光率	快適・働きやすさ	⑩光環境	1.0	0.60	-	-	
3.1.2 方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	0.40	-	-	
3.1.3 昼光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	-	-	-	
3.2 グレア対策			-	-	-	-	
3.2.1 昼光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	-	-	
3.3 照度	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	-	-	
3.4 照明制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	5.0	0.63	-	-	
4 空気質環境			4.2	0.25	-	-	4.2
4.1 発生源対策			4.0	0.50	-	-	
4.1.1 化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気			4.0	0.30	-	-	
4.2.1 換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	0.33	-	-	
4.2.2 自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.33	-	-	
4.2.3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理			5.0	0.20	-	-	
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	0.50	-	-	
4.3.2 嘸煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.8
1 機能性			3.7	0.40	-	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-	
1.1.1 広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	
1.1.2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	
1.1.3 パリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性			4.0	0.50	-	-	
1.2.1 広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	
1.2.2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	
1.2.3 内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理			3.5	0.50	-	-	
1.3.1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-	
1.3.2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			4.0	0.30	-	-	4.0
2.1 耐震・免震			4.0	0.50	-	-	
2.1.1 耐震性	防 災	⑯耐震・免震	4.0	0.80	-	-	
2.1.2 免震・制振性能	防 災	⑯耐震・免震	4.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			4.2	0.30	-	-	
2.2.1 軸体材料の耐用年数	防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	-	-	-	-	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.25	-	-	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.13	-	-	
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.13	-	-	
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.25	-	-	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.25	-	-	
2.4 信頼性			4.0	0.20	-	-	
2.4.1 空調・換気設備	防 災	⑰信頼性	4.0	0.20	-	-	
2.4.2 給排水・衛生設備	防 災	⑰信頼性	5.0	0.20	-	-	
2.4.3 電気設備	防 災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	
2.4.4 機械・配管支持方法	防 災	⑰信頼性	5.0	0.20	-	-	
2.4.5 通信・情報設備	防 災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
3.1.1 階高のゆとり			-	-	-	-	
3.1.2 空間の形状・自由さ			5.0	1.00	-	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
3.3.1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3.3.2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3.3.3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
3.3.4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
3.3.5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	



スコアシート	実施設計段階	重点項目 <非住宅> <集合住宅>	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
配慮項目							
Q3 室外環境(敷地内)	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑯生物環境の保全と創出	4.0	0.30	-	-	4.1
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑯まちなみ・景観への配慮	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑰地域性への配慮	3.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑯敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.7
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	-
4.1 玄ニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	5.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4.1 玄ニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	-
2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-
2.4 車体材料以外におけるリサイクル材の使用			4.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			4.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			4.0	0.50	-	-	-
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮			4.4	0.33	-	-	4.4
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			5.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制			2.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			4.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1 騒音			3.0	1.00	-	-	-
2 振動			-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうらに漏れる光への対策			5.0	0.70	-	-	-
2 垦光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-

上記以外の重点項目							
<事務所用途>							
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑯知的生産性向上への取組	-	-	-	-	-
<住宅用途>							
健康と安心							
1 化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-
2 適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-
3 結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-	-